

久能山（松本奎堂）

石碓 盤回す 老樹の間

此の中 何事ぞ 重関を 設くる

鉄槌 入り 難し 三泉の 底

知る 是れ 祖龍 埋骨の 山

石磴盤回老樹間 此中何事設重関
鐵槌難入三泉底 知是祖龍埋骨山

作者 松本奎堂。幕末の志士で三河刈谷藩士。幼にして奇気あり、頗る武技に達した。かつて槍法を学び左目を傷つけ、それより読書に志し、昌平覺に学んだ。

解説 久能山は静岡市の有渡勘山丘陵南側の急斜面中の孤峰で東照宮があり、徳川家康の墓があるが、家康は日光東照宮に埋葬されていると言われている。

語釈 ※久能山 静岡県静岡市駿河区に在る標高二一六メートルの山。
※石磴 石段。 ※盤回 ぐるぐる折れまわる。 ※重関 重なる堅固な関所。 ※鉄槌 大きな金槌。 紀元前二一八年頃に始皇帝が巡幸の途中で博浪沙を通った所を狙った。方法は重さ約三十kgという鉄槌を投げつけ、始皇帝が乗った車を潰すというものであったが、鉄槌は副車に当たってしまつて暗殺は失敗に終わり、張良たちは逃亡した。と言う故事にある鉄槌。 ※三泉 地下のこと。
※祖龍 秦の始皇帝。ここは家康のことをいう。

通釈 石段がぐるぐる老樹の間をめぐっている。それに何と堅固な見張り所を設けていることは、張良にならつて搏撃しようにも、鉄槌も地下には届くまい。これぞ、徳川家の始祖・家康が骨を埋めた所である。